

図書館だより

目次

「日本女子大学図書館友の会」の解散を惜しむ	——島崎 恒藏	1
第14代図書館長 田中功先生を偲んで	——大谷 康晴	2
日本女子大学図書館における田中功先生に関する文献	——田口 令子	3
「読書教育と図書館」について	——中澤 啓子	4
図書館玄関ホール展示へようこそ	——中澤 恵子	5
日本女子大学図書館友の会第48回・ 平成25年最終総会開催される	——大沼 真美	6
学園関係者の大学図書館利用ならびに地域開放について	——中曾根 緑	7
図書館からのお知らせ		8



桃山期写「源氏物語」(春慶漆塗箱入)

「日本女子大学図書館友の会」の解散を惜しむ

島崎 恒藏

「日本女子大学図書館友の会」(以下、「図書館友の会」と略称)は、本年5月28日に開催された総会をもって活動を停止し解散した。この「図書館友の会」は、特に大学図書館にとっては最も緊密に連携する組織でもあった。この度の解散に至るまで、実に48年にも及ぶ活動実績を積み重ねたことになる。

「図書館友の会」の設立は、現在の目白図書館が開館した翌年の創立者生誕記念日(昭和40年6月23日)にまで遡る。同会は6代学長の上代タノ先生の強力なリーダーシップのもとに設立が実現したもので、本学教職員(旧教職員を含む)、学生(卒業生を含む)とその父母有志、それと一般の方々にもまで及ぶ幅広い会員層によって組織され、図書館に基盤を置く文化的活動は注目された。

「図書館友の会」の諸事業のうち、図書購入のための資金援助は、大学図書館にとって誠に有り難いものであったが、同会の最も特徴的な事業の一つは、「上代タノ平和文庫」の選書・収集と管理・運営に関する補助事業であった。上代先生は、大正10年に婦人平和協会の設立に参加し、昭和30年11月には下中弥三郎、平塚らいてう、湯川秀樹らの各氏とともに「世界平和アピール七人委員会」の創設に関わった初代委員でもあった。このような流れを根底に、大学創立70周年の折に上代先生の蔵書類が「上代タノ平和文庫」として、大学図書館に寄贈された経緯がある。言うまでもなく、「上代タノ平和文庫」は学園にとっても意義あるものであり、「図書館友の会」が解散した今となっては、文庫創設の目的(規程)なども十分に踏まえながら、責任をもって同文庫の拡充・管理を図っていくことが、大学図書館に課された役割であると認識している。

「図書館友の会」が、ほぼ半世紀に及ぶ有意義な活動の足跡を残せたことは、同会の活動に関係された役員を始めとする会員諸氏の努力の賜である。現在、大学図書館には学園構成員の多様なニーズに応えるという図書館としてのプライオリティの高い役割はもちろん、地域連携や公共的活動などの視点が以前にも増して求められている。「図書館友の会」の解散は痛手ではあるが、内外ともに存在感のある大学図書館となるよう、これからも一層の努力をしなければならないと考えている。

(図書館長・被服学科教授)

第14代図書館長 田中功先生を偲んで

大谷 康晴

2013年3月初頭日本文学科に2月25日に田中功先生が急逝されたとの知らせがもたらされた。ご定年後、3年足らずのことであり、悠々自適の生活をされていることと思いでいただければ日本文学科一同大きな衝撃を受け、同時に落胆したものである。

先生は、1942年1月にお生まれになり、1964年慶應義塾大学文学部図書館学科（現在は人文社会科学図書館・情報学系図書館・情報学専攻）をご卒業後、特殊法人日本科学技術情報センター（現在の独立行政法人科学技術振興機構）にご就職なされた。図書館学科は、連合国最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）によって設立された。戦前は図書館学の教育機関がなかったため、図書館学教育の先駆けであり、同時にさまざまな情報サービス機関の専門職員養成機関としても機能し、多くの人材を輩出することになった。先生も、その一人である。

科学技術情報センターは1957年に設立され、JICSTの略称で親しまれてきた。第二次大戦後の世界的な学術情報の増大に対して、著しく遅れていた国内の学術情報流通制度の整備を進めると同時に、海外の情報をいかにして取り込んでいくのがわが国の重要な課題であった。先生は、設立後数年経ったものの、まだ途上にあるわが国の学術情報流通整備の最前線に身を置くことになった。

図書館学を修めた先生は、情報検索、学術情報流通の最新動向を図書館の視点からも考察できる貴重な研究者となられた。さらに、この種のサービスを必要とする自然科学・技術分野を中心とした専門図書館の分野でもご活躍されるようになった。大変貴重な才能であったため、30代の半ばから司書課程の非常勤講師を委嘱され、教育の世界にも関わりを持つようになった。

その後、産業能率短期大学（産能短期大学、現在の自由が丘産能短期大学）で専任教員となられた後、1997年4月カリキュラム全面改訂に合わせて本学司書課程に専任教員が配置される際に、日本文学科に教授としてご着任になられた。以後2010年3月の定年によるご退職に至るまで、図書館事務部長、コンピュータセンター所長、図書館長と学術情報基盤の要職を歴任され、本学の発展に多大な貢献をしてくださったことは、本学関係者にとっては周知のことと思う。

先生のご足跡を辿って改めて感じさせられたのは、新しい領域に果敢に進んで行かれたことである。当時わが国では試行錯誤であった図書館学を専攻とされ、草創期にあった科学技術情報流通の分野に進まれ、さらに初代司書課程専任教員として本学にご着任と、未整備の道を開拓していった事が窺える。先生のお人柄は、一言でいうと穏和というのが衆目一致と思うが、そのお人柄と進取の精神が同居されていたことに、先生の人間としての厚みを感じずにはいられない。

筆者は、先生の大学の後輩となるが、先生との出会いは、1990年代半ばに勤務していた特殊法人日本原子力研究所（現在の独立行政法人日本原子力研究機構）に先生が情報ネットワークの研究嘱託としてご出講された時になる。しばらく顔を合わせる機会に恵まれなかったが、本学着任に際して先生からは様変わりした筆者の風貌についてご指摘をいただき、未熟な後輩にもご関心を向けていただいたことに感動したことを今でも思い出す。

先生の急逝に接して、学内外から多くのお悔やみの言葉をいただいた。心より御礼を申し上げるとともに、先生の思い出をみなさまと少しでも語り合いたく、日本文学科と図書館が発起人となって偲ぶ会（6月29日午後1時30分開始。新泉山館）を開催することとなった。詳細については本学公式サイトでご確認いただきたい。

日本女子大学の一人として、司書課程、図書館さらに本学全体の新しい姿をお見せしたいと思っていたがそれも叶わぬこととなった。昨年某所にてお会いすることを楽しみとしていたが、入れ違いとなってしまったことも、悔やみきれない。せめて泉下の先生に苦笑されることがないように後任として力を尽くしたいと思う一方、今は先生のご冥福を心よりお祈り申し上げたい。

（日本文学科・准教授）

日本女子大学図書館における田中功先生に関する文献



写真の説明

平成20年5月21日（水）百年館504会議室で、第43回図書館友の会総会が開催された。図書館長として挨拶をされる田中先生。

田中功先生 日本女子大学図書館における経歴

■平成9年4月 日本女子大学文学部日本文学科教授に就任 ■平成10年4月 図書館事務部長新任 ■平成13年6月30日 図書館事務部長解任 ■平成20年4月 図書館長

(図書館事務部長兼務) 就任 ■平成21年9月30日 図書館事務部長解任 ■平成22年3月 図書館長退任 ■平成22年3月 日本女子大学を定年退職

「日本女子大学図書館だより」 田中先生寄稿文献

■電子本と印刷本 No.102 1998.7 p2 ■司書教諭科目の変更について No.105 1999.6 p8 ■これからの「本の世界」と「図書館の世界」を知る No.108 2000.6 p4~5 ■これからの大学図書館がめざすもの No.111 2001.6 p4 ■第3の場所としての大学図書館 No.132 2008.6 p1 ■生涯につなぐ図書館の力 No.133 2008.11 p1 ■究極的な大学図書館の地域開放 No.134 2009.3 p1 ■図書館を変える賑わうエリア No.135 2009.6 p1 ■借りた圖書の延滞が与える社会的影響 No.136 2009.11 p1 ■OPACの鍵を開けるには No.137 2010.3 p1

「日本女子大学図書館だより」 田中先生関係文献

■学外利用の視点から～日本女子大学図書館友の会の動き～ No.132 2008.6 p6~7
*写真あり：田中館長（中）『田中館長は挨拶の中で学生時代の思い出話を織り交ぜながら、国内の大学図書館での図書館友の会の活動自体があまり活発ではないことを述べられるとともに、図書館友の会の意義について海外での様子を交えて解説をされた。』 ■日本女子大学図書館友の会第44回・平成21年度総会開催される No.135 2009.6 p5 *写真あり：開会を待つ役員の先生方 ■学習院大学図書館と日本女子大学図書館との相互利用協定について No.137 2010.3 p8 *写真あり：調印式にて 右・田中功日本女子大学図書館長

「日本女子大学図書館友の会 会報」 田中先生寄稿文献

■情報活用を支援する図書館 No.120 2008.12 p1~4 *写真あり

☆日本女子大学国語国文学会発行「国文目白」（第50号：田中功教授退任記念号 2011.2 左p1~6）に、『田中功教授略歴ならびに著述目録』が掲載されている。

☆田中功先生撮影写真の展示

図書館（目白）ロッカー室の壁には、田中先生が図書館長時代にアメリカで撮影された「カリフォルニア大学図書館」「ロサンゼルス公共図書館」の写真が現在も展示されている。

（館員・情報受入課長 田口令子）

「読書教育と図書館」について

中澤 啓子

日本女子大学総合研究所 研究課題45「読書教育と図書館」に2009年4月～2012年3月まで参加する機会を得た。私が参加にあたり興味があったのは、大学生になってからでも読書習慣は身につくのか、読解力は上がるのか、読書習慣を身につけるためには、いつ何をすることが有効なのかということである。また、一貫教育を行う本学園の教育を担う先生方から直接国語教育について伺えることも魅力的であった。

今回の調査の中で、読書と学力は小学校低学年までは相関しているが、高学年になると読書量と学力の関係は一概に言えないことがわかった。また、中学年から高学年のうちに、ジュニア/ヤングアダルトとよばれる段階の良書に出会う機会を持ち、すこし読解に負荷がかかるが1冊を読みあげる根気と読解力を鍛えていく個人の成長に見合った読書を重ねることで、大人の読書につながる読書習慣と読書力（読書が苦にならずに日常で何気なくできる力）を身につけさせることが重要であることを感じた。

大学生の読書習慣は中高時代の読書歴に影響するが、その時代に何をどのように読むかが重要で、うまく大人の読書への移行準備が小学校時代にできていなければ、中高生は図書ではなく、安易に読める携帯小説や雑誌に流れていく。しかし中高時代は受験勉強・クラブ活動に時間が割かれ、小学校時代に身につけられなかった力を補うような司書による適切な読書への働きかけを重ねるのは難しい。一方、大学に入学してからでも、少し読解に負荷がかかる良書の読書を大量に重ねることにより相応の読書力が身につく説も今回知ることができた。

社会が求めているのは汎用性のある基礎的な学力であり、社会人になっても新しい、より高度な知識の習得ができる力が不可欠となっている。新しい知識の習得には活字を読む作業は不可欠で、読書力が人生に渡って求められる。学生の皆さんには日々の研究のためだけでなく、読書力を上げるためにも良書の宝庫である大学図書館を上手に利用してもらいたいと思う。

2008年12月に文部科学省中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」では、大学図書館は教育活動の直接関与として、情報リテラシー教育の主体となって取り組むことが求められ、カリキュラム開発や実施を教員と共同で行うだけでなく、教員を兼任するなどして直接授業を担当すること、e-Learningへの貢献も期待されている。本学図書館でも教員からの依頼により授業時間内に行う参考係によるガイダンス、資料検索講習会などを実施しているが、さらに今後取り組むべき課題があるように思う。2010年12月文部科学省「大学図書館の整備について（審議のまとめ）-変革する大学にあって求められる大学図書館像」では、具体的に大学図書館に求められる機能・役割が示された。社会からの期待、本学における学修・教育・研究の動向などをふまえ、大学図書館でできること、大学図書館だからできることを行い、地道に活動していきたい。

私が、このたびの研究に参加することになったきっかけは、研究課題のメンバーである本学名誉教授田中功先生が、大学図書館の職員も参加するよう、上司にお声がけをくださったことによる。田中功先生は本学図書館事務部長、図書館長でいらしたので、館内での会議などで当時はよくお目にかかっていた。目白・西生田の全館員が出席する会議で、北米の図書館事情についてスライドを交えてお話をしてくださったこともある。田中功先生は残念ながら、本年2月25日にご逝去された。病室で今回の研究報告の校正を仕上げでいらしたことが、今回の研究報告の掲載された総合研究所紀要が病室に置かれてあったことなどをご逝去後に伺った。2011年3月11日には研究メンバー全員で田中先生と一緒に食事をする予定であったのに、震災がおこり中止となり、結局その後、実際にお会いする機会がないままであった。田中先生はいつも優しく、細やかなお心遣いをくださる先生であった。心よりご冥福をお祈り申し上げる。

（館員・閲覧係）

図書館玄関ホール展示へようこそ

図書館玄関ホールでは四季折々に展示を開催し、皆様をお迎えしている。ここでご紹介するものはその一部であるが、お時間のある時に立ち寄っていただくきっかけになれば幸いである。

図書館(目白)玄関ホール展示

◆図書館を探検しよう! 2013 with 館内スタンプラリー-2013◆

開催期間: 2013年4月4日(木)~4月30日(火)

図書館学生アルバイトと館員で作成したビジュアルな図書館案内「図書館を探検しよう! 2013」を展示。館内のどこに何があるかを玄関ホールで簡単に学び、有効活用していただければと願う。また、昨年度に引き続き、館内スタンプラリーと共催し、展示の中にスタンプ配置場所のヒントも掲示した。館内スタンプラリー-2013参加者は266名(学生256名、通信教育課程学生5名、教員1名、職員2名、リカレント生2名)にのぼり、昨年度以上に好評であった。

◆貴重書特別展示『源氏物語』◆

開催期間: 2013年5月11日(土)

12時00分~16時30分

2012年度泉会「貴重資料購入援助費」による購入資料『源氏物語』(伝宗周・理成筆、桃山期写、外題・五井善斎筆)を特別展示。100名以上の来場があり、時間帯によっては非常に混み合うこともあったが、熱心に文字を見つめる方、装丁に関心を持つ方、書き入れに興味を示す方と様々な観点から貴重書をご堪能いただけたようであった。



◆学生が薦める上代タノ平和文庫の1冊 2013◆

開催期間: 2013年5月15日(水)~7月10日(水)

上代タノ平和文庫は、本学の第六代学長上代タノ先生の寄贈図書により、創設された文庫であり、図書館(目白)5階にある。「女性が、国際平和についての問題意識を明確に持ち、平和への推進力となることを念願し」て選ばれた図書が、現在も、そのご遺志を継いで継続収集されている。

今回の企画では、他の方々にもお薦めしたいと思う上代タノ平和文庫の1冊を学生に選んでいたが、資料選定の際に書いていただいた推薦コメントとともに展示している。また、玄関ホール入口には上代タノ先生が平和文庫寄贈の意図を述べられた文章を掲示、中央には『図書館だより』No.145, p.6~7「上代タノ平和文庫の紹介」にあげられた資料を展示している。

西生田図書館玄関ホール展示

◆写真で見る西生田キャンパス今昔◆

開催期間: 2013年4月3日(水)~5月18日(土)

西生田校地が選定されてから、人間社会学部誕生の頃までを、主に学園史や卒業アルバム掲載の写真で振り返った。

「思ったより変わっていない」か、「見違えるよう」か、お確かめいただけたらだろうか。

(館員・閲覧係 中澤恵子)



日本女子大学図書館友の会第48回・平成25年最終総会開催される

平成25年5月28日（火）日本女子大学図書館友の会（以下友の会）第48回総会が開催された。

友の会は、日本女子大学図書館を物心両面から支えることを目的として第6代学長上代タノが設立、志ある人々に依って48年間にわたり運営されてきたが、諸般の事情を鑑み平成25年3月末をもって閉会となった。1年の成果を報告する総会は毎年5月に開催されていたが、この第48回総会が、友の会の長きにわたる活動の最後をしめくくる行事となった。会員が集う最後の会となるために総会は参加者50名近くと盛況、惜別と懐かしさと互いの会への尽力をねぎらい合い、終始和やかな雰囲気ですべては進行した。

平成24年度の事業報告、上代タノ平和文庫の報告、卒業生著作調査報告、決算報告、監査報告がなされ、拍手を以て承認された。恒例の議事の他に、今回は平成25年3月閉会後の諸報告があり、精算収支計算書などの説明がなされ、今後の一切を事務局に一任することが承認された。

続いて図書館事務部長より図書館報告があり、その後は常であるなら講演会が開催されていたが、最終総会では講演会に替え懇親会が催された。

友の会に縁の深い先生方、あるいは事務局を始め古くからの会員の方々より、友の会の諸活動に対する思い出、図書館に篤い志を注いだ上代タノ学長のこと、WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部と友の会の関係など、さまざまな話題が語られた。人生を歩む傍らに友の会の活動があり、



それが心の弾みや支えであったことが何え、話は尽きなかった。その中でも「上代タノ平和文庫は友の会の目標でもあった。これからも、細いながらも小さいながらも命脈を保ってほしい」と切々と訴えた会員の方のことが心に残る。また、多くの方が「閉会ですべてが終わるのではない、友の会の積み上げた実績、あるいは経験によってまた未来を拓いてゆけると信じている」と語っていたのも印象的であった。

（写真：蟻川芳子会長、新井明副会長、出淵敬子副会長、事務局の方々、図書館長、図書館事務部長）

なお、閉会にあたり長きにわたる活動を記した『日本女子大学図書館友の会 記録－48年の歩み－』が上梓され会員に配布された。奉仕の精神を貫いた図書館への援助の他、手作業で卒業生の活動の成果を世に知らしめ、また会に集う人々に豊かな教養の場を与え続けた、友の会の多岐にわたる活動の記録である。
（館員・逐次刊行物係 大沼真美）



日本女子大学図書館友の会・最終総会に参加して

ついにこの日を迎えてしまった、というのが偽らざる心境でした。図書館友の会は、筆者が本学図書館に奉職する以前より活動をされており、新人の頃より、そのご支援や、諸先輩方と友の会の方々との交流をずっと身近に感じてきました。友の会はいつも図書館のそばにあり、ゆるぎない存在感を持っていました。

昨年度、友の会閉会後の諸課題を検討する中で、あらためて友の会活動がいかに広く先進的なものであったかを感じさせられました。平成25年度より、「上代タノ平和文庫」の発展を友の会より継承していますが、国際平和に貢献できる後進を育てたいとの上代先生の強いメッセージを再確認し、選書・収集に加え「活用」される文庫であるよう一層の努力をはらっていく所存です。

趣旨に賛同した方が集い、大学図書館の充実発展を支えるとともに、会員相互に学び合い高め合ってこられた友の会、その閉会に際して原点が再び輝き、今後への力を与えていただいたように感じます。大学図書館を通して、先人、師、学友と交流し多くの若芽が育つよう、今後とも心して、図書館の発展に努めてまいりたいと思います。（図書館事務部長・情報サービス課長兼務 中曽根綾）

学園関係者の大学図書館利用ならびに地域開放について

本学図書館では、2013年度より、学園関係者ならびに地域住民の方の大学図書館利用（資料閲覧）を開始しました。新たな対象者は下記のとおりです。

対象者	利用対象館	入館時にご提示いただくカード等	開始月
泉会会員	目白・西生田	大学より会員に発送したカード	4月
附属校園在校生・園児の保護者	目白・西生田	附属校園が保護者に配付している入校証	4月
目白会会員	目白・西生田	大学より会員に発送予定のカード	7月
附属中学校，高等学校の生徒	目白・西生田	附属中学校，高等学校発行の身分証明書	4月
文京区民 (18歳以上の女性)	目白	文京区立図書館発行の大学図書館内閲覧証	4月
川崎市多摩区民 (18歳以上の女性)	西生田	川崎市立多摩図書館発行の大学図書館内閲覧証	6月

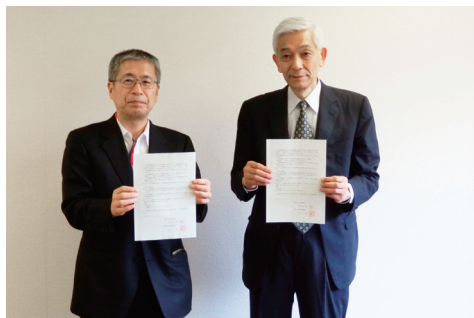
* 利用に関する詳細は、図書館ホームページの「利用案内」をご覧ください。



地域開放に関する覚書交換 — 文京区，川崎市多摩区 —



奥山郁男文京区立真砂中央図書館長（左）
と島崎恒蔵本学図書館長



鈴木隆川崎市立多摩図書館長（左）と
島崎恒蔵本学図書館長

本学が締結している文京区との相互協力に関する協定、多摩区・3大学連携協議会に関する協定をふまえ、大学図書館の利用について、2012年度に学内および学外関係者による検討・準備を行い、2013年度より運用を開始するはこびとなりました。

「日本女子大学図書館（目白キャンパス）の文京区民への開放に関する覚書」の交換は、2013年2月28日（木）、文京区立真砂中央図書館および本学図書館の図書館長、図書館職員が出席して本学図書館（目白）館長室において執り行われました。図書館（目白）の2013年度開館初日（4月3日）より利用受入を開始しており、5月31日（金）までに6名の区民が計7回、来館されています。

「日本女子大学西生田図書館の川崎市多摩区民の利用に関する覚書」の交換は、2013年6月4日（火）、川崎市立多摩図書館および本学図書館の図書館長、図書館職員が出席して本学西生田キャンパス九十年館A棟応接室において執り行われ、6月10日（月）より利用受入を開始しています。

（図書館事務部長・情報サービス部長兼務 中曽根 緑）

図書館からのお知らせ

日本女子大学図書館
サービス向上への取り組み
(2012年4月～2013年4月)

<2012年度>

- 入館管理システム入替（図書館システムとの自動連携機能）始動（4月）
 - 館内設置メディアセンターパソコン6台増設（目白, 4月）
 - 第1回館内スタンプラリー実施（目白, 4月）
 - 『女子大通信』に「レポート・学習のための参考資料の探し方」を新規掲載（4月・5月, 10月・11月）
 - 「学生が読みたい本」実施（5月・11月）
 - 玄関ホール特別展示：貴重書「ケルムスコット・プレス版『チョーサー作品集』」（目白, 5月・6月・11月）
 - 玄関ホール展示「バーン＝ジョーンズの芸術」（目白, 6月～7月）
 - 国立国会図書館より引き渡しの博士論文デジタル複製物を図書館ホームページに掲載（5月）
 - コピー機入替, カラーコピー料金値下げ（フルカラー50円→30円, 単色・2色50円→10円）（9月）
 - 各学科（教員1名）より専門分野の図書館所蔵資料への意見聴取（11月）
 - 図書館システム「iLiswave-J V2」バージョンアップ（12月）OPACの操作性向上等
 - マイクロリターダ・プリンタ入替（西生田, 3月）
- <2013年度>
- 泉会会員, 附属校園の保護者, 附属中高生による大学図書館利用開始（4月）
 - 地域開放開始（目白：文京区民, 4月）
（西生田：川崎市多摩区民, 6月）
 - 館内スタンプラリー2013実施（目白, 4月）

2012年度実施した利用者向け講習会

大学スケジュールとして実施

- ・1年次オリエンテーション<目白・西生田>
スライド上映：4/4 目白・西生田
図書館案内：4/4 西生田（自由参加形式229名参加）

教員からの依頼等により授業時間内に実施

- <目白> 計33回757名
児童3回102名 食物2回9名
被服1回15名 日文4回253名
英文19回261名 史学3回112名
物質生物1回5名参加
- <西生田> 計13回223名
現代社会1回6名 社会福祉5回111名
教育3回67名 心理3回30名
大学院社会福祉1回9名参加

図書館主催で実施

- <目白>
 - ・新大学院生オリエンテーション 4/12
家政学, 文学, 理学 8名参加
 - ・資料の探し方講習会-蔵書検索編-
（5月～6月）21回34名参加
- <西生田>
 - ・資料検索講習会（5月～7月, 10月）
蔵書検索編 11回14名
DB 日本語編（CiNii）20回29名
DB 日本語編（JDream II）1回1名
DB 英語編（ProQuest）1回1名
DB 英語編（Scopus/ PubMed）1回1名
RefWorks 日本語編 1回1名
RefWorks 日本語・英語編 1回1名参加
新聞編を合わせて受講（内数）14回17名

今後も実施しますので、
ふるってご参加ください。

編集後記 隣の大学へ田中功館長と歩いて出向いたことがある。協定の話を進める緊張を伴う用件であったが、先生との目白通りの往復は穏やかなひとときであった。当館としては初の他大学図書館との相互利用協定が田中館長の時に締結された。先生のお人柄を表すかのように和やかで、今後の希望にあふれたご退職時の学科の会を思い出す。合掌。巻頭写真は、2012年度泉会「貴重資料購入援助費」による購入貴重書。（中曽根）